

付表 自己意識の発達段階(2021.5.5 版)

…は、境界の曖昧性を意味する。世界（自己）は、自己と世界の不一致の直接体験を観察主体寄りに意識している状態、自己（世界）は、観察対象寄りに意識している状態を意味する。H 主体（ホロニカル主体）は、「理」の面は、宇宙の原理，社会規範，生活規範，戒律，文化，美德，思想，信条，信念，倫理のこと。「情」の側面は，慈悲的，苛烈的，支配的，批判的などの情緒的な色合いをもつ。慈悲×○○は、自己と世界が一致時、慈悲的心的世界となり、不一致時に、○○な心的世界となるという意味。

第0段階（ゼロ・ポイント） 絶対無（空）の場

第1段階（混沌）

世界と自己の関係は無境界的で混沌

第2段階（融合）：慈悲×苛烈

原初なる H 主体（理）を内在化した内外融合的主体

自己（世界）

第3段階（幻想）：慈悲×支配

幻想的主体を内在化した内外融合的外的現実主体

内的現実主体

自己（世界）

第4段階（他律）：慈悲×批判

世界（自己）

既知の H 主体を内在化した
他律的外的現実主体

内的現実主体

自己（世界）

第5段階（自律）：慈悲×悲哀

世界（自己）

創発的 H 主体を内在化した
自律的外的現実主体

内的現実主体

自己（世界）

第6段階（IT：それ）：ホロニカル

自己と世界の関係は，ホロニカルの（縁起的包摂関係）